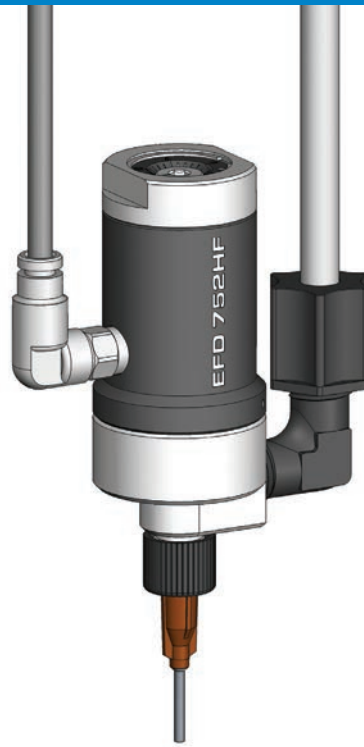


ハイフローダイヤフラムバルブ752HF

メンテナンス・パーツガイド



重要!
このガイドは大切に保管してください。

このガイドは、メンテナンス管理者にお渡しください。

ノードソンEFDの取扱説明書のpdfファイルは、www.nordsonefd.com/jpからダウンロードできます。



バルブの分解組立手順

⚠ 注意

傷を防ぐために、バルブは液剤吐出口側から分解してください。

接液ボディー

1. 2本の固定ネジを外します。
2. 接液ボディーを再度取り付けるには、接液ボディー、ダイヤフラム、シリンダーボディーの穴の位置を合わせ、固定ネジを挿入します。下表のトルク規格値に沿って締めつけてください。

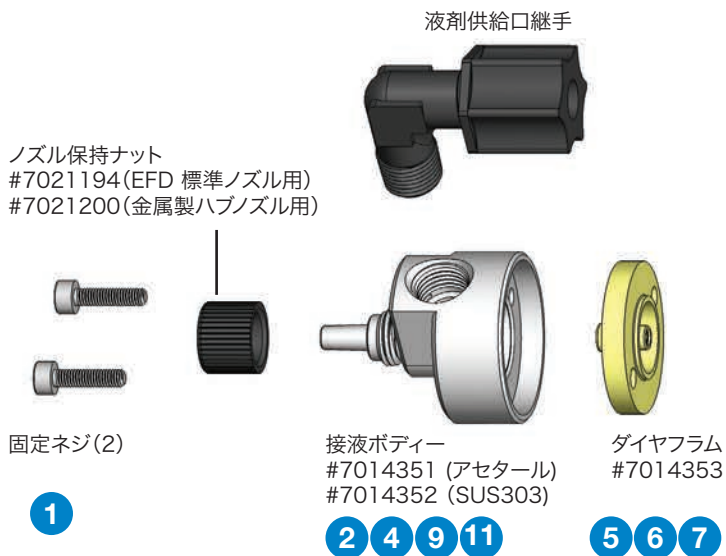
接液ボディー
1.58 N·m (14 in.-lb)

ダイヤフラム

3. ストローク調整ノブを、完全に閉まった位置から反時計回りに2回転させて、引き出します。
4. 接液ボディーを取り外します。
5. ダイヤフラムを反時計回りに回して、ピストンロッドから外します。

使用する工具：

2.5mmと3mm六角レンチ
1/8" マイナスドライバー
6" モンキーレンチ
6" ラジオペンチ
スナップリングプライヤー



バルブの分解組立手順 (続き)

ダイヤフラム (続き)

6. 新しいダイヤフラムを取り付け、中程度の圧力で締め付けます。
7. マイナスドライバーをストローク調整ノブの穴に挿入して、ダイヤフラムの穴を、エアシリンダーボディの適切な固定穴に合わせ、ピストンロッドの細い穴に合わせます。
8. ロッド、ピストン、ダイヤフラムアッセンブリを、それぞれの穴の位置が揃うまで時計方向に回します。
9. 接液ボディを装着します。
10. ストローク調整ノブを、閉まるまで時計方向に回し、その後適切なストロークが得られるように開いてください。

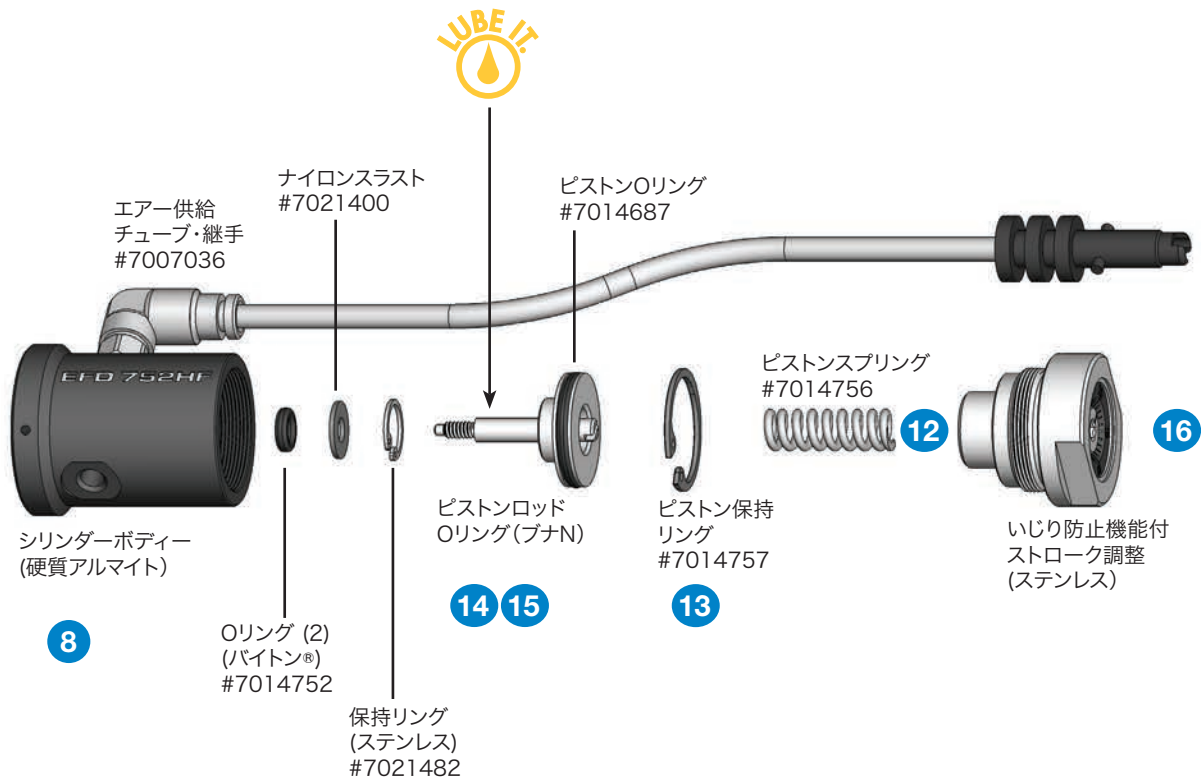
ピストンリング

11. 接液ボディとダイヤフラムを外します。
12. ストローク調整ノブとばねを、反時計回りに回して外します。
13. ピストン固定リングと反トルクワッシャーを外します。
14. ピストンを外します。
15. Oリング、ピストンシャフト、エアシリンダーの内面を、ナイ潤滑油#865で潤滑します。
16. 分解したときと逆の順序で組み立てます。

バルブ機種別交換部品

| モデル | アセタール 接液ボディ | ステンレス 接液ボディ | 液剤供給口継手 |
|----------|----------------|----------------|------------------------|
| 752HF-A | ・ | | 7021499 (1/4" OD tube) |
| 752HF-SS | | ・ | 7021499 (1/4" OD tube) |

| 部品番号 | 説明 |
|---------|-------------|
| 7014139 | 752HF-Aバルブ |
| 7014315 | 752HF-SSバルブ |



トラブルシューティング

液剤が吐出されない

- ・バルブ駆動エアーの圧力が低すぎる場合、バルブは開きません。エアー圧を最低でも0.48MPa(70psi) まで上げてください。
- ・タンクのエアー圧が充分でない。エアー圧 を上げてください。
- ・ノズルが詰まっている。ノズルを交換してください。
- ・ストローク調整が閉じている。ストローク 調整を開いてください。
- ・接液ボディー内で液剤が固化している。接 液ボディーを洗浄してください。

バルブが閉じたあと、液漏れが見られ、徐々に止まる

- ・この現象は、接液ボディーの吐出部にエアーが溜まっている、あるいは液剤にエアー が混入している場合に見られます。エアー はバルブが閉じたあとに膨張し、エアーが 大気圧に達するまで液剤を押し出します。
- ・液剤にエアーが混入しているときは、吐出 を行なう前に脱泡してください。

バルブが閉じたあと、液漏れが一定の間隔でみられる

- ・一定間隔で液漏れする場合は、タンク圧が 高すぎる可能性があります。タンク圧が0.48MPa(70psi)を超えていないかご確認ください。
- ・ストローク調整ノブを2回転以上開いた場合、加圧された液剤がダイヤフラムシール部を押し開く恐れがあります。ストローク調整ノブを2回転以上開かないようにしてください。
- ・一定間隔で液漏れする場合は、液剤の粒子 が堆積しているか磨耗しているために、ダ イヤフラムが完全に閉じないことが考えられます。メンテナンス方法の説明に従い、シーリングヘッドを交換してください。

液剤が接液ボディーとダイヤフラム の間から漏れる

- ・接液ボディーとダイヤフラムの間からの 液漏れは、接液ボディーの環状シーリン グリッジが破損している、固定ネジの取 付トルクが大きすぎて接液ボディーが変 形しているなどの原因が考えられます。接液ボディーを交換してください。

駆動エアー入力口下の通気孔から液 剤が出る。

- ・ 駆動エアー入力口のすぐ下に、放熱用の 通気孔がありますが、ここから液剤が出るのは、ダイヤフラムが破損していることが考えられます。

バルブ開閉のレスポンスが遅い

- ・バルブのレスポンスは駆動エアーチューブの長さや径に関係しています。ノード ソンEFDのバルブには、内径3/32"の5'のチューブが同梱されていますが、これより 長い、あるいは太いチューブをご使用に なると、レスポンスタイムに影響がでます。違う長さ、内径のチューブを使用し ていないか確認してください。

吐出が不安定

- ・バルブ駆動や液剤タンクへの供給エアー 圧が一定ではない、あるいはバルブ駆動 エアー圧が70 psi (0.48MPa)未 満の場合、液 剤吐出が不安定になる場合があります。エアー圧が安定しており、駆動エアー圧 が0.48MPa(70psi) に達しているかご確認ください。
- ・バルブの開放時間は一定である必要があります。バルブ コントローラーが正しい 出力を行なっているかご確認ください。



ノードソン EFDは、世界40ヶ国に販売・サービス拠点を持っています。詳細は www.nordsonefd.com/jp をご覧ください

日本
+81-3-5762-2760; japan@nordsonefd.com

グローバル
+1-401-431-7000; info@nordsonefd.com

バイトンは、E.I.DuPontの登録商標です。
WAVEデザインは、Nordson Corporationの登録商標です。
©2024 Nordson Corporation 7026834 v031224